

平成30年度 事業報告書

I. 国際体験創造事業

次代を担う青少年や市民各層に対し、外国人との直接的な交流による異文化体験の機会を提供し、国際性豊かな人材を育成するとともに、本協会の他事業への参画も図ることで、松山の国際化に向けた人材の活用に努めた。

1. 第36回 まつやま中学生海外派遣

中学生を姉妹・友好都市へ派遣し、現地での交流や異文化体験を通じて、未来を担う青少年の国際感覚を養い、国際性豊かな人材の育成に努めた。

(1) 応募・選考

1年間の国際交流事業への参加実績に応じてポイントを付与し、翌年度の派遣事業への応募資格とする「中学生チャレンジプロジェクト」を実施。派遣前に松山で活動できる国際交流事業に参加し、その意義を学び、楽しさを体感することで、派遣後も引き続き地域の国際交流に貢献できる人材の育成を目指した。

4ポイント以上の参加により、応募資格を獲得した生徒は111人。面接審査により、3年生24人、2年生16人、合計40人（21校）を選考した。

(2) 事前研修及び結団式・壮行会

事前研修：4回開催

結団式・壮行会（7月9日予定）は、西日本豪雨のため中止した。

(3) 派遣

①アメリカ班

期 間：7月25日～8月3日 10日間

訪 問 先：サクラメント、サンフランシスコほか

派 遣 団：中 学 生 20人（男子8人、女子12人）

団 長 大野 和憲（久谷中学校 校長）

引率教師 三原 慶彦（中島中学校 教諭）

〃 河野 理佳（教育研修センター）

協会職員 向井 かおり

活動内容：【サクラメント】

- ・州議事堂、市庁舎等の見学
- ・旧市街、鉄道博物館見学
- ・コロマ地区での砂金採取体験
- ・現地姉妹都市協会との交流会
- ・ホームステイ ほか

【サンフランシスコほか】

- ・ハーレイファームズで農場体験
- ・サンタクララ大学見学
- ・LSIサンフランシスコバークレー校での英語研修 ほか

②ドイツ班

期 間：7月21日～7月30日 10日間

訪 問 先：フライブルク、ジュネーブほか

派 遣 団：中 学 生 20人（男子8人、女子12人）

団 長 横江 茂樹（北条北中学校 校長）

引率教師 中井 将基（三津浜中学校 教諭）

〃 白形 利佳（椿 小学校 教諭）

協会職員 松本 美貴

活動内容：【フライブルク】

- ・エコステーション、ヴァルトハウスでの環境学習
- ・フライブルク大学見学、ドイツ語学校授業体験
- ・ホームステイ、ホストファミリーとの交流会 ほか

【ジュネーブほか】

- ・エモッソンドム、国際連合ヨーロッパ本部、
- ・欧州原子核研究機構見学 ほか

（4）報告会

日 時：8月18日 13:30～15:30

会 場：コムズ5階 大会議室

内 容：米独両班による報告

30年度チャレンジプロジェクト登録生徒55人が参加

（5）報告書の発行

報 告 書：A3・10頁 1,600部（市内中学校全クラスへ枚数を配布）

（6）30年度チャレンジプロジェクト

- ・市内全中学校への案内文書の発送やメールニュース・ホームページへの掲載等で広報し、4月21日に説明会を開催。広報まつやま等も活用し、登録生徒を募集。
- ・中学生に相応しい国際交流・体験活動を随時実施。26事業に延べ552人が参加。126人が31年度派遣への応募資格となる4ポイント以上を獲得した。

2. 姉妹・友好都市からの青少年受入交流

姉妹・友好都市からの青少年を受け入れ、松山の青少年との交流機会を創出するための事業であるが、フライブルク市の青少年の来松は隔年のため本年度は実施予定がなく、韓国・平澤市の中学生受け入れ交流事業については、相互交流となっている「まつやま中学生海外派遣事業」の韓国派遣休止に伴い、30年度は実施なしとなった。

3. 海外からの親善訪問団等受入

姉妹・友好都市からの訪問団を受け入れ、親睦を図ったほか、海外からの文化・スポーツ・教育関係者など、様々な個人・団体が来松した機会を捉え、市民との交流機会を創出し、国際理解の促進に努めた。

（1）フライブルク大聖堂少年合唱団

フライブルク市の大聖堂少年合唱団70名が来松し、松山少年少女合唱団と合同

コンサートを開催し音楽による交流を行ったほか、ホームステイを通して市民との直接交流を図った。

- ・期 間：8月22日～25日
- ・内 容：姉妹都市交流コンサート、松山城見学、砥部焼絵付け体験、合気道体験 ほか

(2) 姉妹都市提携30周年記念・フライブルク代表団

1988年10月のフライブルク市での調印から30周年になるのを記念し、マーティン・ホーン市長をはじめ、副市長・市議など12名からなる代表団が来松。記念行事を実施したほか、過去3年間に渡り生徒がフライブルク市でフィールドワークを実施している愛媛県立松山東高等学校を訪問、生徒たちとも交流するなど、友好交流を図った。

- ・期 間：9月6日～9日
- ・内 容：松山市長及び市議会表敬訪問、記念植樹
まつやま Re・再来館視察、酒造見学、愛媛FC試合観戦
松山フライブルク会との交流昼食会 ほか

(3) フライブルク市民訪問団

フライブルク市の公募により集まった市民親善訪問団20人を受け入れ、文化・観光の魅力を紹介するとともに、交流団体や市民との直接交流の機会を作り、さらなる親睦を深めた。

- ・期 間：10月5日～8日
- ・内 容：松山城・道後温泉観光
秋祭り神輿体験
しまなみ街道ツアー
松山フライブルク会による歓迎交流会 ほか

(4) フライブルク経済訪問団

フライブルクの地方銀行であるシュパール・カッセ銀行の顧客等63名からなる訪問団が来松。松山市や愛媛県の経済状況についての説明会を行ったほか、松山の経済人との交流夕食会を開催し、情報交換等を行った。

- ・期 間：10月30日～11月1日

(5) 平澤市職員

平澤市職員16名が研修のため来松。松山市の観光資源である道後温泉や、スポーツ施設中央公園の視察を行った。

- ・期 間：11月4日～7日

(6) ジャズハーピスト 古佐小 基史さん

松山市出身でサクラメント市を拠点として活動する古佐小基史さんが公演のため帰松した機会に、生徒を対象とした交流事業を実施した。

- ・内 容：①11月2日 松山市立椿小学校
全校児童が参加 ハープ演奏・講話
②11月30日 松山市立雄郡小学校
全校児童が参加 ハープ演奏・講話

(7) 愛媛マラソン平澤市選手団

平澤港マラソンに松山選手団が参加したことに伴う相互交流として、平澤市から選手6名と市関係者と2名が来松。視察や交流をコーディネートした。

- ・期 間：2月8日～11日
- ・内 容：愛媛マラソンへの参加及びコース下見
ボランティアガイドの案内による道後温泉別館飛鳥乃湯泉・松山城
観光 ほか

4. 地球人まつり

通算22回目となる「地球人まつり in まつやま・えひめ」を、E P I Cとの共催により開催し、外国人市民が市民と一緒に自国を紹介するブースを出展することで、外国の歴史や文化に親しみながら市民とふれあう機会を提供し、身近な国際交流の促進を図った。

また、各ブースのボランティアスタッフとして幅広い年代層の市民が参画し、外国人市民との交流や相互理解を図る場を作り出すことができた。

- ・日 時：1月14日 13：00～17：00
- ・場 所：松山市総合コミュニティセンター 企画展示ホール1～3F
- ・出 展：世界各国ブース 15ブース
フードブース 10ブース
民族衣装試着コーナー
パフォーマンス出演 8グループ
- ・ボランティア数：外国人市民58人・市民ボランティア181人
(うち、チャレンジプロジェクト登録生徒33人)
- ・来 場 者：約1,700人
- ・そ の 他：2階、3階に愛媛県国際交流協会が主催する県内国際交流団体の活動紹介ブース(23団体)が出展

5. フライブルク市寄贈ぶどう活用

フライブルク市から寄贈され、松山市野外活動センター内の「フライブルク友好ぶどう園」において、市が栽培しているぶどう(品種名：ソラリス)果実を、松山市内の団体(福祉事業所、NPO団体など)へ寄贈し、ジュースやジャムなどに加工して、活用してもらうとともに、フライブルク市との姉妹都市交流について、広く周知することができた。

○寄 贈 先 就労移行支援所など5団体

・ジャム・コンフィチュール・焼き菓子などに加工

○製 造 品 ・ぶどう飴 600袋(10個入り)

※平成29年度に搾汁した果汁を使用

※収穫体験イベントについては、企画するも西日本豪雨被害で、ぶどう園への立ち入りができなくなったため中止した。

II. 共生支援事業

外国人も「同じ地域で生活する住民である」ということを認識し、住民生活に必要な支援を行った。また、外国人の地域行事への参加を促し、地域への溶け込みを図るとともに、市民や地域の国際理解を深め、多文化共生を推進した。

1. 外国語としての日本語教室

外国人市民が日常の生活に必要なコミュニケーションを日本語で行えるよう、レベル別に分けて基礎講座を開催した。また、来日間もない外国人住民を対象とした「今すぐ日本語～くらしの情報広場～」も開催。授業を通じて、松山の生活に必要な情報も提供した。

講座名	曜日	時間	年間回数 (回)	登録者数(人)		
				前期	後期	
平日	初級Ⅰ	火曜	13:00~14:30	30	19	9
	初級Ⅱ	木曜	13:00~14:30	30	16	15
	初級Ⅲ	木曜	14:45~16:15	30	15	17
夕方	初級Ⅰ	火曜	18:30~20:00	30	12	27
	初級Ⅱ	火曜	18:30~20:00	30	27	24
週末	今すぐ 日本語	原則 土曜	13:30~15:30	20	32	9

- 託児サポート：子どもを持つ外国人市民も受講できるよう託児サポートを実施。
・利用者：前期2人(子ども2人)、後期2人(子ども2人)
- 「今すぐ日本語」では、外国人オタスケマン登録者にサポーターとして参加してもらい、生活情報提供等を行ったほか、フィールドワークも実施。

2. 留学生支援団体助成

外国人留学生を中心とした外国人市民の生活をサポートするため、生活必需品の提供活動を行う民間団体に対し、助成を行った。

団体名	事業内容	助成金額 (総事業費)
シリキリヤ サポート クラブ	市民に呼び掛け、まだ使える生活必需品や余剰品を集め、留学生に提供する活動を実施。年間で240回を超える収集や提供を行った。主な提供品は洗濯機や冷蔵庫・電子レンジなどの家電用品、机、棚など。 主な経費：倉庫使用料、車借上げ料、ガソリン代など	300,000円 (550,843円)

3. 外国人のための無料行政書士相談

愛媛県行政書士会・松山支部との連携により、まつやま国際交流センター会議室を会場に毎月一回無料の行政書士相談を実施し、外国人市民の行政手続きや契約等に関する相談に応えた。

- ・開催日：毎月1回(原則第2水曜日)
- ・時間：13:30~15:30の間 一人30分程度
- ・場所：コムズ4階 国際交流会議室
- ・相談件数：18件
- ・主な相談内容：在留資格・ビジネス・家に関する事など

4. 国際交流サロン

外国人市民との交流の中で、市民が世界の様々な文化・生活習慣・価値観等を学び、国際交流へ参加するきっかけとして「国際交流サロン」を開催した。

	月 日	内 容	参加者数 (人)
1	4月20日	【外国語 de おしゃべり】 世界7カ国出身の外国人市民をゲストに迎え、英語のみでのおしゃべりを楽しみ、交流を図った	33
2	6月10日	【ドイツ語 de おしゃべり】 ドイツ出身で松山に短期滞在中のゲストによる国や文化の紹介。“外国語 de おしゃべり”初のドイツ語版の開催で、ドイツを身近に感じる機会となった	8
3	9月17日	【アルゼンチンサロン “水色と白のアイデンティティ”】 アルゼンチン出身の講師による国や文化の紹介のほか、お茶の試飲や簡単なスペイン語講座を通してアルゼンチンを知る機会を得た	23
4	11月25日	【インドネシアサロン “Mari Menari～多様なインドネシア舞踊の世界”】 インドネシア出身の講師による多様な民族舞踊と民族衣装の紹介のほか、参加者自身も舞踊を体験し、インドネシア文化の一端に触れることができた	18
5	2月3日	【“ハッケン!!まつやまの姉妹・友好都市”】 《コムズフェスティバル事業として開催》 松山の姉妹・友好都市について、それぞれの国出身の講師による紹介のあと、軽食の調理と試食を体験。食を通して、各都市の魅力を発見できる機会となった	23
6	3月21日	【スリランカサロン “アーユボーワン～スリランカのティータイム～”】 スリランカ出身の講師による国や文化の紹介と、お茶菓子の調理体験。ティータイムを楽しみながら、スリランカについての理解を深めた	16
合 計			121

5. ジュニア国際交流「コスモリアン入門教室」

小・中学生を対象に、多文化共生意識の醸成やコミュニケーション能力の向上を目的とした講座等を開催し、心に国境をもたない“コスモリアン”の育成を図った。

(1) 国際理解教育の支援

学校からの依頼を受け、授業へ留学生らを派遣したほか、職員による職場体験を実施するなど、「国際理解教育」への支援を行った。

内 容	小 学 校	中 学 校	そ の 他
① 職場体験／出前講座	1回（120）	5回（32人）	—
② 学校等への外国人派遣	3回（16人）	7回（16人）	—

※延べ人数、①は参加生徒数 ②は派遣した外国人数

(2) コスモリアン教室

JICA四国・松山ユネスコ協会・えひめグローバルネットワークなど他団体との連携により、ワークショップを開催したほか、外国人と直接交流できる機会を設け、青少年の異文化体験や国際理解に努めた。

	月 日	内 容	参加者数 (人)
1	5月27日	<p>【「世界一大きな授業」で考える私たちにもできること】 ≪松山ユネスコ協会との連携≫ 高校生・大学生という年齢の近い講師グループによる‘非識字体験’で勉強することの大切さを体感。また、世界には学校に行けない子どもたちがいる現状を知ることができた</p>	31
2	6月23日	<p>【のぞいてみよう！国際協力の世界①】 ≪JICA四国との連携≫ ○元青年海外協力隊員体験談：ザンビア コロンビア 協力隊としてそれぞれの国での活動や体験を聞くことで、日本からは遠い国の生活について知ることができ、日本との違いや松山や日本の良いところ、悪いところについて再認識する機会となった。</p>	35
3	7月26日	<p>【南の国からアロ～ハ】 ≪愛媛県国際交流協会との連携≫ ハワイからのインターン生を講師に、ハワイの概要や文化・言葉について学んだ。またワークショップではフラを体験し、動きの一つ一つに意味があることを知ることによって、よりハワイを身近に感じることができた</p>	31
4	11月11日	<p>【ハケン都市ハッケン!!①】 松山の姉妹・友好都市3都市にゆかりのあるゲストから、各都市の紹介を受けた後、各国のお菓子作りを通して交流を図った</p>	29
5	11月18日	<p>【松山から世界を考えよう！①】 ≪えひめグローバルネットワークとの連携≫ 松山市の小中高生も製作に参加した“グローバルかるた”で世界の現状を学んだあと、高校生時代から国際協力活動に参加してきた現役大学生の体験談を聞き、自分達にもできることを考える機会となった</p>	29

6	12月1日	【世界で暮らす日本人】 松山出身でサクラメントを拠点に活動するジャズハーピスト・古佐小基史さんをゲストに、アメリカの生活、文化の違いなどについてお話しや、ハーブ演奏の鑑賞を行った。また、これから海外でホームステイなどを経験しようとする人へのアドバイスもいただいた	33
7	2月10日	【ハケン都市ハッケン!!②】 松山の姉妹・友好都市のある国出身のゲストにそれぞれの国や街について紹介してもらった後、クイズや遊びなどを通して、交流し理解を深めた	25
8	3月3日	【松山から世界を考えよう!②】 ≪えひめグローバルネットワークとの連携≫ 「チャレンジアフリカ」というカードプレイを通して、アフリカ・ザンビアに生まれた人の人生を疑似体験。「生まれた環境は選べない」ということを強く認識した。また、この日学んだことをもとに、自分にできる“マイプロジェクト”を考えた	23
9	3月17日	【のぞいてみよう!国際協力の世界②】 ≪JICA四国との連携≫ ○元青年海外協力隊員体験談：エクアドル ○ワークショップ：自分が協力隊としてエクアドルに派遣されることになったら、どのような活動をしたか?について考えた。エクアドルで起こっている現実の問題をふまえ、どの分野でどんな活動をしたかを話し合うことで、エクアドルという国にも、協力隊の活動にも興味を持つことができた	23
合 計			259

(3) ESDコーディネーター派遣

ESD（持続可能な開発のための教育）の専門家であるNPOを学校へ派遣し、頭で理解するだけでなく実際に行動へ移す国際理解教育を支援した。

各校での活動に際しては、松山市内で国際協力を実施している団体や、自身も市内の小学校でESD教育を受けて成長した現大学生などと連携し、学習や活動をより身近なものとして感じる工夫がなされた。

	学 校	内 容
1	北条小学校 6年生 80名 (計9回)	モザンビーク、カンボジア、ネパール、フィリピンについて事前に調べ学習を実施。その後、各国で活動を行っている松山市内の団体の活動を知り、自分達にできる活動を考えた。実際に地域に募金箱を設置したり、雑巾を作って販売するなどの活動を通して資金を集め文具を購入し、支援を行っている団体に渡すことができた。 また、モザンビークの小学生とインターネットを通してリアルタイムでやり取りすることで、交流をより実感することができた

2	新玉小学校 3～6年生 338人 (計7回)	<p>①3年生 松山在住のモザンビーク人との交流を通して、ことばや文化について学んだ。また、同校の卒業生で、現所在地元の大学に在学中の学生にも参加してもらい、当時の授業についての話も聞いた</p> <p>②4年生 モザンビークの文化や暮らしについて知るため、楽器などに直接触れ、日本との違いや共通点に気づくことができた</p> <p>③5年生 モザンビークの生活について紹介し、その都市部と農村部の違いを知ることができた。また、現地に行った経験のある人から話を聞き、児童たちが質問する時間も持つことができた。</p> <p>④6年生 新玉小学校が行ってきたモザンビークの支援活動が現地でどのような成果につながっているかを紹介。児童たちが活動を継続するために、どのようなことをしていくかについて、自身で考えた</p>
3	清水小学校 4年生および 6年生 165人 (計3回)	<p>①4年生 身近な自然としての大川について学び、ゴミ問題の解決や生き物観察の大切さについて学んだ</p> <p>②6年生 体験された先生から、モザンビーク渡航の様子を紹介してもらったのち、世界やモザンビークでの人々や子どもたちの暮らしについて、解決すべき課題について学習を深めた</p>
4	KTC おおぞら 高等学院 1年生10人 (計2回)	E S D事業や国際協力事業について紹介し、世界の現状や行動に移すことの大切さを伝えた。また、グローバルかるたを活用し、参加者同士で意見交換を図った

(4) 外国語（英語）de おしゃべりジュニア編

中学生とネイティブスピーカーがグループになり、遊びやゲームを英語だけでやり取りすることで、楽しみながらコミュニケーション能力の向上を図った。

月 日	内 容	参加者数（人）
6月10日	クイズ対抗戦、カードゲームほか	中学生 27 外国人市民 6
10月28日	ゲーム、ファミリーカードゲームなど	中学生 34 外国人市民 6
1月27日	伝言ゲーム、単語ゲームなど	中学生 34 外国人市民 6
合 計		中学生 95 外国人市民 18

6. 地域交流サポート

地域や団体の協力を得て、文化行事やお祭り等の地域行事へ外国人市民の参加を促し、住民との交流の場をコーディネートすることにより、外国人市民の地域社会への溶け込みと多文化共生を図った。

(1) 地域や団体の行事への参加

	月 日	内 容	参加者数 (人)
1	5月10日	【二之丸薪能】 松山市文化協会の招待により、外国人市民が伝統文化を鑑賞	13
2	5月12日 ～13日	【二之丸大茶会】 愛媛県茶道連盟松山支部の招待により、外国人市民が伝統文化を体験	9
3	10月6日	【銀天街神輿パレード】 銀天街第一商店街振興組合が運行する神輿パレードに外国人市民が参加し、日本の伝統行事を通して、地域住民と交流	4
4	11月21日	【松山城秋能】 松山市文化協会の招待により、市民会館で外国人市民が伝統文化を鑑賞	12
5	1月20日	【北条歴史ツアー】 北条地域の歴史を巡る街歩きに、留学生が参加。専門家や地元の人たちと文化や歴史に触れた	5
6	1月27日	【北条鹿島で植樹体験】 鹿島で地元小学生と一緒に、桜の植樹を体験したほか、地元の人たちとの交流昼食会で、北条鯛めしを楽しんだ	9
合 計			52

※ その他、各種団体の協力や依頼により、様々なイベントへの招待や、参加呼びかけ、ボランティア活動・祭りなど地域行事への参加もあり。

Ⅲ. 基盤整備事業

外国人市民に対する情報発信等により、その生活をサポートする。また、一緒にサポートしてもらえる人材の育成や、団体の活動活性化を図ることで、“人・物・情報をつなぐネットワークづくり”を行い、協会が地域の国際交流の“拠り所”となるよう努めた。

1. 国際交流市民ボランティア入門講座

市民を対象に、入門講座と、地域で活動する国際交流団体によるガイダンスの場を設けることで市民とのマッチングを図った。また、中学生を対象に「ジュニアボランティア入門講座」を開催し、幅広く人材育成に努めた。

○入門講座

- ・日 時：2月17日
- ・受講者数：27人
- ・内 容：第一回：「できることから始めよう国際交流ボランティア」
松山東雲女子大学・柴崎あい先生による講話。ボランティアとは何

か？ボランティアをする目的とは？などボランティアを始めるにあたっての心構えについてのお話をうかがった。

○国際交流団体による活動紹介

- ・日 時：2月24日
- ・受講者数：25人
- ・内 容：市内で活動する国際交流14団体による活動紹介の後、個別に質問等のできる時間を設け、マッチングを図った。

○ジュニアボランティア入門講座

- ・日 時：10月14日
- ・受講者数：中学生15人
- ・内 容：留学生支援倉庫「シリキリヤ」において、外国人市民とともに倉庫の清掃・荷物整理を行った。

2. 交流ボランティアのための語学講座

地域での交流やボランティア活動に市民の“外国語能力”を活かせるよう、語学やコミュニケーション能力のスキルアップ講座を開催した。

また、これらの受講者を含めてボランティアガイドに登録し、活動してもらうことで、市民参加の拡大に努めた。

(1) ボランティア語学講座

観光・文化施設の案内など、ボランティア活動に必要な実践的な語学の習得を図った。

講座名		前期（4～9月）	後期（10～3月）
ハングル	上 級	13回・登録者14人	13回・登録者13人
中国語	上 級	13回・登録者11人	13回・登録者10人
英 語	平 日	15回・登録者59人	15回・登録者59人
	土曜集中	5回・登録者30人	5回・登録者23人

- ・英語集中講座は、前期「道後温泉」・後期「椿神社」が学習対象
- ・各講座とも、観光施設等において実地研修を行うフィールドワークを実施。その際外国人市民をゲストに招き、実践的な活動を行った。

(2) ボランティアガイド活動

登録者による観光ガイドやイベント通訳等の支援を行った。

使用言語：英語、中国語、韓国語、ドイツ語

《ボランティアガイド登録：124人》

	月 日	内 容	種別	派遣人数 (人)
1	8月23日	フライブルク・大聖堂少年合唱団松山城案内	ガイド	10
2	8月24日	フライブルク・大聖堂少年合唱団 秋山兄弟生誕地案内	ガイド	2

3	10月6日	フライブルク市民訪問団 松山城案内	ガイド	6
4	10月6日	フライブルク市民訪問団 道後温泉案内	ガイド	2
5	10月7日	フライブルク市民訪問団 しまなみ海道	通訳	1
6	10月12日	フライブルクバーデン新聞記者 松山城及び道後温泉案内	ガイド	1
7	10月19・21日	坊ちゃん劇場アジア演劇祭	通訳	2
8	11月2日	オーストラリア人観光客 松山城及び道後案内	ガイド	1
9	11月4日	平澤市職員 松山城案内	ガイド	2
10	11月5日	平澤市職員 道後温泉案内	ガイド	2
11	1月20日	北条歴史探訪街歩き	通訳	1
12	1月27日	北条鹿島植樹と交流会	通訳兼ガイド	2
13	2月5日	松山ショッピングフェスティバル・オープニングセレモニー	通訳	1
14	2月9日	愛媛マラソン平澤市参加者の松山城案内	ガイド	2
15	2月9日	愛媛マラソン平澤市参加者の道後案内	ガイド	2
16	2月10日	愛媛マラソン平澤市からの参加ランナーのサポート	通訳	4
合 計				41

3. ホームステイ・ホームビジット振興

日本の文化や家庭生活の体験を希望する外国人に対し、ホストファミリーをマッチングし、ホームステイ・ホームビジットを行うことにより、実際のふれあいを通して異文化交流、相互理解を図った。

《ホストファミリーバンク登録：163家庭》

○ホームステイ

	期 間	受入人数 (人)	受入 家庭	内 容
1	4月6日～ 4月9日	2	1	オーストラリア人夫婦
2	5月18日～ 5月20日	9	8	愛媛大学のアメリカ人短期留学生
3	7月5日～ 7月9日	20	4	オーストラリア男子高校生 (EILよりの依頼)
4	8月13日～ 8月16日	1	1	韓国人女性
5	8月22日～ 8月24日	60	36	フライブルク大聖堂少年合唱団

6	8月29日～ 8月31日	4	3	フライブルク学生（高校生～大学生）
7	9月14日～ 9月16日	13	6	愛媛大学のアメリカ人短期留学生
8	1月12日～ 1月14日	12	9	愛媛大学のアメリカ人短期留学生
合 計		144	64	

○My Matsuyama Family

留学生に松山を“第二の故郷”として親しんでもらえるよう、松山での家族となってもらえる家庭と引き合わせ、4か月を目安として、ホームステイに限らない自由な交流を行ってもらう「My Matsuyama Family」を実施した。

- ・交流実績：春季（6月～9月）：7カ国11人の留学生が11家庭と交流
秋季（11月～2月）：6カ国20人の留学生が20家庭と交流
- ・登録家庭：209家庭

4. 生活サポートボランティア派遣

外国人市民からの相談に対し助言を行うとともに、必要に応じて登録制の生活サポートボランティア“オタスケマン”に同行してもらい、サポートを行った。

《オタスケマン登録者数：医療142人・日常317人》

○日常生活サポート

	月 日	内 容	派遣人数 (人)
1	5月18日	運転免許切り替え	1
2	5月19日～	「今すぐ日本語」サポート及び情報提供 (前期・全10回)	11
3	9月 2日 及び 10月7日	小学校入学に伴う家庭での学習支援	3
4	10月13日 ～	「今すぐ日本語」サポート及び情報提供 (後期・全10回)	9
5	10月26日	入国管理局同行	1
6	12月3日～	小学校での学習支援員	1
7	3月22日	パンフレット翻訳	1

5. 民間国際交流団体等助成・支援

(1) 姉妹・友好都市との交流助成

姉妹・友好都市との交流促進を目的として民間団体等が実施する訪問・受入事業に対し、助成金を交付し、市民主体の友好親善の促進を図った。

	月 日	事 業 内 容	助成金額 (総事業費)
1	4月12日～ 4月15日	<p>交付先：松山・平澤友好協会 事業名：平澤国際交流協会受入れ事業 内 容：民間団体である平澤国際交流協会のメンバーが松山を訪問。文化体験やスポーツなどを通して交流を深めた 主な経費：通訳謝礼、移動交通費など</p>	45,710 円 (91,420 円)
2	7月22日～ 8月 4日	<p>交付先：ボーイスカウト松山地区協議会 事業名：第17回姉妹都市交流ボーイスカウト松山地区サクラメント派遣事業 内 容：サクラメントへスカウトを派遣し、サクラメントボーイスカウト第50団、第250団とのキャンプやホームステイを通して相互理解と友好を深めた 主な経費：渡航費、ホームステイ経費など</p>	200,000 円 (4,247,246 円)
3	8月31日～ 9月 2日	<p>交付先：愛媛地球市民の会 事業名：愛媛交響楽団&平澤市交響楽団との合同演奏会 内 容：愛媛交響楽団と平澤市交響楽団との合同演奏会を実施し、音楽を通じて言葉の壁を越え交流の促進を図った。また、地元の児童・生徒への音楽指導なども行われ、交流の一層の広がり貢献した 主な経費：宿泊費、移動交通費、通訳謝礼など</p>	200,000 円 (1,122,698 円)
4	9月19日～ 9月25日	<p>交付先：愛媛大学附属高等学校 事業名：JFK 高との交流事業 内 容：以前から交流を行っているサクラメントのジョン・F・ケネディー校を訪問。同校の授業に参加、ディスカッションやプレゼンテーション等で交流した。また、ホームステイを通して多様な価値観を理解することに繋がった 主な経費：渡航費</p>	200,000 円 (1,161,400 円)
5	9月29日～ 10月 2日	<p>交付先：平澤港マラソン大会招待選手団 事業名：平澤市「2018 平澤港マラソン」への参加 内 容：平澤市からの招待を受け、選手4名が同市を訪問しマラソンに参加。マラソンを通じて大会関係者やランナー・平澤市民との交流を図った 主な経費：渡航費</p>	78,980 円 (157,690 円)
6	11月12日 ～ 11月14日	<p>交付先：サクラメント松山姉妹都市協会 事業名：松山サクラメント姉妹都市協会訪問団との交流事業 内 容：松山サクラメント姉妹都市協会のメンバー等が松山訪問する機会に、交流会開催し、会員・市民と広く親交を深めた 主な経費：交流会会食費、アトラクション謝礼など</p>	153,254 円 (306,480 円)

(2) 後援

	月 日	事 業 名	団 体 名
1	9月22日、 23日	第13回外国語教育及び研究についてのミニ 学会 in Matsuyama	愛媛大学ルードルフ・ ライネルト研究室
2	9月30日	Dogo! ワールドパーク	特定非営利活動法人 R a d i a n t
3	10月13日	第35回マドンナ・レシテーション・コンテス ト～中学生英語暗誦大会	松山東雲中学・ 高等学校
4	10月13日	第25回カルフル杯英語弁論大会	松山大学E.S.S「英 語部」
5	10月21日	まつやまハーブフェスティバル	南海放送株式会社
6	11月 7日	平成30年度地域国際化ステップアップ セミナー in 四国	一般財団法人 自治体国際化協会 市民プラザ
7	11月27日	宮城道雄作品集を弾く・・・ 松本安也子 箏演奏会	南海放送株式会社

6. 情報発信事業

(1) 情報冊子等による情報提供

生活ガイドブック、防災マニュアル等により、生活情報を外国人市民へ提供するとともに、市民に対しても、姉妹・友好都市紹介等のパンフレットを提供し、国際理解の促進を図った。

また、英語ボランティアガイドクラスが編集した英文情報誌を月に1回発行し、各種情報を提供した。

○月刊英文情報誌「What's Going On?」

毎月約550部発行（公共施設・駅・空港・大学など42か所に設置）

(2) ホームページ・メールニュース・フェイスブックによる情報提供

イベント、講座等の情報のほか、外国人市民向けの生活情報も適宜、掲載・発信し、情報内容の充実に努めた。

○メールニュース

週1回定期発信、登録数：市民 1,970件・外国人市民 906件

(3) まつやま国際交流センター 情報コーナーの整備充実

国内外の定期刊行物や諸外国に関する図書等を収集し市民の諸外国の情勢や生活文化への理解と、外国人市民の日本社会や文化等に対する理解促進を図った。

○図書貸出：39件

(4) ラジオ・テレビによる広報

松山市のラジオ・テレビ広報番組を通して、協会の事業の広報を行い、市民への周知を図った。

	月 日	告 知 内 容	番 組 名
1	7月 7日	フライブルク大聖堂少年合唱団の来松案内	ラジオ広報番組 「みんなの松山」

2	10月13日	My Matsuyama Family の案内及び参加者による体験談	ラジオ広報番組 「みんなの松山」
3	1月8日	地球人まつり2019の案内	ラジオ広報番組 「みんなの松山」
4	1月8日	地球人まつり2019の案内	テレビ広報番組 「大好き 松山」
5	3月9日	ボランティア語学講座案内ほか	ラジオ広報番組 「みんなの松山」

IV. もてなしの風土醸成事業

外国人観光客誘致による交流人口の拡大を支援し、外国人が訪れやすい“やさしい風土づくり”の促進に努めた。

1. レンタサイクル

海外からの誘客に向けた受入環境の整備の一助として、短期滞在外国人向けのレンタサイクルを設置し、無償で貸し出した。

- ・設置台数 8台
- ・料金 無料
- ・貸出回数 57回

V. 評議員会・理事会の実績等

平成30年度における評議員会・理事会の開催状況等

1. 評議員会の開催状況

○第1回評議員会

開催日時：平成30年6月12日

開催場所：松山市男女共同参画推進センター4階国際交流会議室

決議事項：平成29年度公益財団法人松山国際交流協会事業報告及び収支決算の承認

出席者：評議員4人、理事2人、監事1人（欠席1人）

○第2回評議員会

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：公益財団法人松山国際交流協会監事の選任

出席等：決議事項について、評議員4人全員の書面による同意の意思表示を得た6月29日をもって、評議員会の決議があったものとみなした。

○第3回評議員会

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：公益財団法人松山国際交流協会理事の選任

出席等：決議事項について、評議員4人全員の書面による同意の意思表示を得た8月15日をもって、評議員会の決議があったものとみなした。

2. 理事会の開催状況

○第1回理事会

開催日時：平成30年5月25日

開催場所：松山市男女共同参画推進センター3階会議室2

決議事項：平成29年度公益財団法人松山国際交流協会事業報告及び収支決算の承認

平成30年度公益財団法人松山国際交流協会定時評議員会の招集

報告事項：職務執行の状況

出席者：理事7人、監事1人（欠席1人）

○第2回理事会

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：公益財団法人松山国際交流協会監事の選任

出席等：決議事項について、理事7人全員の書面による同意の意思表示及び、監事2人全員から書面により異議がないことの意味表示を得た6月28日をもって、理事会の決議があったものとみなした。

○第3回理事会

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：公益財団法人松山国際交流協会理事の選任

出席等：決議事項について、理事7人全員の書面による同意の意思表示及び、監事2人全員から書面により異議がないことの意味表示を得た8月14日をもって、理事会の決議があったものとみなした。

○第4回理事会

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：公益財団法人松山国際交流協会給与規程の改正

出席等：決議事項について、理事7人全員の書面による同意の意思表示及び、監事2人全員から書面により異議がないことの意味表示を得た1月4日をもって、理事会の決議があったものとみなした。

○第5回理事会

開催日時：平成31年3月28日

開催場所：松山市男女共同参画推進センター4階国際交流会議室

決議事項：平成31年度公益財団法人松山国際交流協会事業計画及び収支予算等の承認

報告事項：職務執行の状況

出席者：理事5人（欠席2人）、監事2人

3. 関連当事者との取引の内容

役職及び氏名	内 容	金 額
評議員 ルース・バージン	5月12、13日に開催した「まつやま中学生海外派遣事業」派遣生選考のための面接審査員	24,000円
	6月17日に開催した「まつやま中学生海外派遣事業」研修の講師	5,000円
	3月16日に実施した当協会の嘱託職員採用にかかる面接審査員	12,000円